

授業科目名	国語学 (2100129)		
時間割名	国語学 (12108)		
時間割担当	桑原祐子		
実施期	後期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・2		

授業の目標・概要

言語研究は、形態・意義・職能の3つの部分からなっており、それぞれ有機的な繋がりを持っている。本講義では、職能と言語生活を中心に学ぶ。職能の分野として、文法・文章を取り上げる。合わせて、各々の分野における言語現象の歴史の変遷についても学ぶ。合わせて、国語科教師としての実践力の基礎となる教材分析の能力を涵養する。

学習の到達目標

日本語を構成する音韻及び音声についての認識を深める。日本語文を表記する漢字の受容、平仮名・片仮名の成り立ち、国語国字問題などを理解する。日本語の語彙の種類を理解する。以上の各分野についての日本語の変遷を理解する。

授業方法・形式

講義形式である。テキストに沿って、具体的な言語現象について解説を行うが、受講生の積極的な発言を促す。毎時間、所見カードの記述を求める。

授業計画

- 第1回 国語学と日本語学とはどのように異なるのか。
世界の中の日本語を考える。
- 第2回 音声による言語表現 1
音声とは何か、音韻とは何か。
- 第3回 音声による言語表現 2
現代日本共通語の音節にはどのようなものがあるのか。
- 第4回 音声による言語表現 3
どのような音が変化してきたのか。音韻はどのように変遷してきたのか。
- 第5回 音声による言語表現 4
日本語のアクセントには、どのような特徴があるのか。
- 第6回 文字による言語表現 1
日本語は、どのようにして漢字を受容したのか。
- 第7回 文字による言語表現 2
平仮名や片仮名はどのようにして成立したのか。
- 第8回 文字による言語表現 3
読みのプロセスから見た日本語文表記の特徴は何か。
- 第9回 文字による言語表現 4
仮名遣・国語国字問題はなぜ起こったのか。
- 第10回 日本語の語彙の特質 1
日本語を構成する語彙は、どのように分類されるのか。
- 第11回 日本語の語彙の特質 2
日本語の語彙には、どのような位相があるのか。
- 第12回 日本語の語彙の特質 3
日本語は、外来の言葉をどのようにして受容してきたか。
- 第13回 日本語の通時的研究
音声による言語表現の限界をどのようにして克服してきたのか。
- 第14回 日本語の通時的研究
文字による言語表現をどのようにして発展させてきたのか。
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

定期試験 60%、所見カード 20%、授業への参加度 20%の割合で、総合的に評価を行う。

授業時間外の課題

1. テキストを読み、知らない文献や資料について調べておくこと。
2. 身の回りの具体的な言語現象についての収集を心がけること。
3. 不思議に思うこと、疑問に思うことは、積極的に質問し、問題提起すること。

メッセージ

日本語に関する事柄について、様々な情報を収集すること。
私語・飲食は禁止。携帯電話等の使用禁止。

教材・教科書

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』（和泉書院）

参考書

金田一春彦 『日本語の特質』（NHKブックス）
山口仲美 『日本語の歴史』